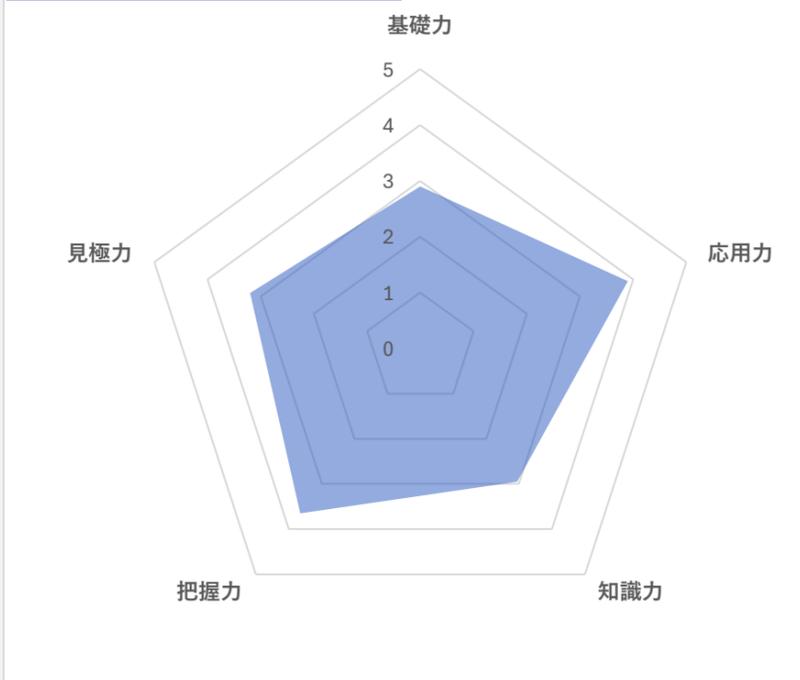


総合分析

試験区分	一般
------	----

制限時間	50分 (理科 2科100分)	大問数	全 3 問
------	-----------------	-----	-------

合格に要する能力 (5段階)

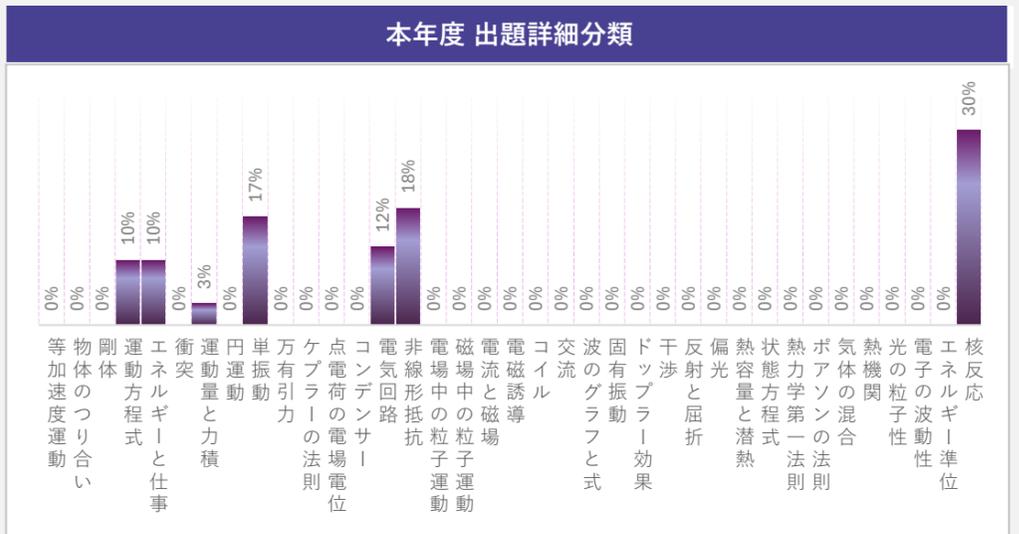


合格に要する能力 (5段階)		
基礎力	2.7	原理についての理解
応用力	3.7	演習経験による慣れ
知識力	2.8	用語を正確に覚えているか
把握力	3.5	臨機応変に状況を把握する力
見極力	3.0	解きやすい問題を選択する力

出題分野	
力学	40%
電磁気学	30%
波動	0%
熱力学	0%
原子物理	30%

本年度 解答形式	
選択肢	100%

本年度出題テーマ一覧	
第 1 問	原子核
第 2 問	水平面上のばねでつながれた 2 物体の運動
第 3 問	ダイオードを含む回路・半導体



特殊問題の有無		
特殊問題の有無	近似計算なし	グラフなし
正誤問題なし	理由記述なし	数値計算あり

特記事項 昨年まであった小問集合がなくなった。大問数が昨年から 1 問減。

総合評価

項目	値	説明	標準	一次合格に必要な正答率 (予想)	66%
難度	3.1	最難を 5 とする問題自体の難度	標準		
分量	58分	完答に要する時間 (制限時間は50分)	やや多い	標準	

入試の特徴と対策

- ▶ 入試問題としてありふれた題材が多い。単純に演習量で十分に対策できる。
- ▶ 概ね法則の運用に関する応用的な出題である。物理計算への慣れが必要となる。

入試から見る 大学が求める学生像

普段の研究で得た結果を一足飛びに適用しなければ時間的に厳しい。第 1 問の計算問題では、計算結果が簡単になるように調整されておらず、やや煩雑な数値計算をミスなくこなす能力が問われている。今年の分量はさほどでもないが例年分量が多いため、優先して解く問題を見極める力が必要である。また他ではあまり見ないような、問い方が独特な問題もある。このような出題傾向から、計算力・応用力・見極力をバランスよく兼ね備えた学生が求められていると考えられる。